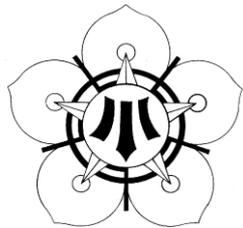


地域と家庭と学校が一つになって子どもを育む…それが“チーム七小”です！



くさぶえ

福生市立福生第七小学校
令和5年度 学校だより

福生第七小学校
ホームページ
URL



<https://fussa-7e.hs.fussa.school/>

所在地 福生市北田園一丁目1番地1

発行責任者 校長 山岸 史子

令和6年1月9日 発行

新しい年の幕開けに

校長 山岸 史子

あけましておめでとうございます。旧年中は学校の教育活動にご理解いただき、様々な場面でご支援・ご協力いただき、感謝申し上げます。今年はいよいよ創立50周年をお祝いする年です。子どもたちと保護者、地域の皆様と一緒にお祝いができるよう計画してお伝えしてまいります。本年もどうぞよろしく願いいたします。

さて、年末年始はご家族と、また普段は離れて暮らしているご親戚の方とも、子どもたちがかかわることができたでしょうか。また、隣近所の方とあいさつを交わし、様々な人同士の温かいつながりを感じられる機会となっていることを願います。

今年は年明けから心が痛くなるような災害や事故が続きました。令和6年能登半島地震はここ東京でも揺れを感じるほどの大きな地震でした。報道で知るその被害の大きさ、そこに暮らす方々の不安は計り知れなく、今自分には何ができるのかと考えさせられました。同時に、いつ起こるともわからない天災に対して、どんなに準備・訓練をしてもしすぎることはないのだろうと、学校や自分の家庭での準備について見直しをしようと思いました。学校での日ごろの訓練に加え、子どもたちが家にいる時、習い事に行っている時等、個々にある様々な場面を想定して命を守ることの大切さとその方法について、子どもたちが保護者の皆さんと考えることができるよう工夫をする必要性を改めて強く感じました。

このような状況の中でも、フェイクニュースが紛れていることが気になります。情報の発信方法やツールが情報発信の「プロ」ではない私たち個人にも使いやすくなってきたことにより、情報化社会と言われるようになって久しいものの、間違った形で、また中には悪意をもって、安易に広げられてしまうのは大きな問題となっています。現代の子どもたちは掌（てのひら）に収まるほどの画面を窓口にして、その情報の海に飛び込めしてしまう環境下にあります。もしかしたら、純真な子どもの正義から、誤った情報を拡散する手伝いをしてしまうこともあるかもしれません。私たち大人が当たり前のようにしている注意は、体験・経験の少ない子どもにとっては当たり前ではないと肝に銘じ、どんなにうるさがられても伝え続けることは大切だと思えます。

どんな時でも平常心でいることはとても難しことです。しかし、冷静に判断して自分の言動をコントロールすることは、特別な時だけでなく日常的にしているものと思えます。私たちは子どものころから繰り返し、この訓練を人とかかわりの中で繰り返してきています。人とかかわることは温かい心を学ぶと同時に、自分の在り方を考えていくことにつながります。たくさんのことを人から学んでいます。

新年の幕開けに、温かい「人とかかわり」をたくさんできる環境を、子どもたちに作っていきたいと感じます。そして温かいかわりのできる人であってほしいと願います。

